様　式　C－19、F－19、Z－19　(共通)

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成　27　年　　6　月　　5　日現在

機関番号：14401
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2012～2014
課題番号：24520283

研究課題名（和文）〈スキャンダラス・メモアリスト〉女性作家と異国トポス

研究課題名（英文）A Study of "Scandalous Memoirists" and their representation of Foreignness

研究代表者
服部　典之（HATTORI, Noriyuki）

大阪大学・文学研究科・教授

研究者番号：50172937

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,900,000円

研究成果の概要（和文）：　18世紀英国で赤裸々な自伝を出版して世間を騒がせた女性作家T.C.PhillipsやLaetitia Pilkingtonらは、近年〈スキャンダラス・メモアリスト〉と呼ばれ注目を集め始めている。男性中心的「小説の勃興」の潮流に棹さしたことと、扇情的な自己表現のあまりrespectableな読者の反感をかったため二百年以上等閑視されていた〈スキャンダラス・メモアリスト〉たちを、本研究は自伝文学の先駆けとして再評価した。さらに、彼女たちの「自伝」が「小説」ジャンルとの往還によって18世紀英国文化活性に大きく寄与したことを、彼女たちの「異国トポス」表象に着目することで、初めて解明した。

研究成果の概要（英文）： Female autobiographers in the 18th century England called "Scandalous Memoirists" are now attracting scholarly attention. Those female authors have been ignored due to the fact that their writings contain violent expressions normally deemed indecorous and they are outside the canon prescribed by Ian Watt. This study reevaluates these female writings by focusing on their close interconnection with literary conventions, and posits that they are real precursors of canonical literary autobiographers. Scandalous Memoirists activated the 18th century English culture by dint of their energetic power and their innovative representations of foreign cultures such as Jamaica, France and Portugal

研究分野：英国小説研究

キーワード：自伝文学　英国小説　女流作家　スキャンダラス文学　異国性

1．研究開始当初の背景

英国 18 世紀散文研究の中で最も勢力を持ってきたのは、ジャンルとしては小説であり、イアン・ワット『小説の勃興』(1957)という古典的研究書出現以来、デフォー、スウィフト、リチャードソン、フィールディングら男性小説家を中心にキャノンが形成されたのは、文学史的常識である。その後、ワットらが無視したベーン、ヘイウッド、マンリーら女性小説家が再評価されて文学史が組み直されたが、それからもかなりの年月が経過している。それにもかかわらず、英国 18 世紀散文研究から完全に脱落していたのが、「告白」や「弁明」の形で具体的な男性関係などのスキャンダラスな内容をも自ら実際経験したこととして赤裸々に語った女性達の自伝である。これらの書き物を「発掘」したのは L.M.Thompson, *The Scandalous Memoirists* (2000)であり、二世紀以上忘却されていた T.C.Phillips(1709-1765)や Laetitia Pilkington(1709-1750)らが〈スキャンダラス・メモアリスト〉として、研究の俎上に載せられた。それ以前にも例えば F.Nussabaum, *The Autobiographical Subject* (1989)にも言及はあるが、あくまでも自叙伝研究の一環として、その黎明期のものという小さな扱いであった。

スキャンダラス・メモアリストの本格的研究は Kathleen Wilson, *The Island Race* (2003)をもって嚆矢とする。この書物の重要性は二点ある。(1)T.C.Phillips 婦人の数奇な人生が描かれた自伝である *An Apology for the Conduct of T.C.Phillips*(『T.C.フィリップス婦人の行動への弁明』1748-9)を丹念に分析するとともに、婦人の伝記的事実やこの自伝の重要性を初めて紹介したこと。(2)Phillips 婦人のジャマイカ旅行の文化史的意義を説き、18 世紀に異国に渡った様々なイギリス人たちの一人として正確に位置づけ、その国家・ジェンダー・アイデンティティの意味を研究する意義を説得的に語ったこと。

(1)に関してだが、実はフィリップス婦人の伝記的事実に関して詳細なことは分かっていない。イギリスで最も権威のある辞典（*Dictionary of National Biography*)の最新版でも、フィリップス婦人が 1738～41 年にジャマイカに渡った記述が完全に欠落しているように不完全である。

(2)に関してだが、この研究書はイギリスのアイランド性を基点に、異国に渡り航海記を残した複数の人物の文化接触体験を扱っており、例えばその第２章「アイランド・レイス――クック船長とイングランド・エスニシティ」は、イギリス人として初めて南太平洋を周航しその記録を残したクック船長の航海の意味を歴史学的、カルチュラル・スタディーズ的見地から分析し、それとの関係性からイングランドの特質を「アイランド・レイス」であるとした、優れた研究である。

2．研究の目的

（1）未研究の初版の解読と、「自伝」ジャンルと「小説」ジャンルの往還関係の解明

本研究では、フィリップス婦人の他、上述の Laetitia Pilkington 婦人や Lady Mary Wortley Montague（モンタギュ婦人, 1689-1762)、Elizabeth Gooch（グーチ婦人, 1756-1806）ら、〈スキャンダラス・メモアリスト〉の一次資料を精密に読み解き、その文学的特質をまず明らかにすることを目的とした。特にフィリップス婦人に関しては、初版の入手が極めて困難であり、共に初版とはかなり異同がある第 2 版以降の版を使用しており、その意味で本来的な意味を読み込むことにおいて不足があると思われた。特に本書は、そもそもフィリップス婦人が夫との離婚訴訟を進める上での証拠文献として執筆されたという経緯があり、夫が圧力をかけた出版社が印刷を拒んだため、私家版としてフィリップス婦人自らが自宅の窓から売っていたものである。このオリジナルの版を大英図書館等で精読・読解することがまず肝要であった。準備段階として、申請者は 1761 年版に目を通したが、フィリップス婦人のスキャンダラス・メモアールは、同時代のデフォーやリチャードソンからの影響がうかがえ、自伝文学の先駆けとして読む際、同時代の文学作品との往還関係が色濃く刻まれていると思われる。その意味で、本作品は極めて文学的（それも優秀な）であることが考えられ、これを実証的に明らかにすることを目的とした。他のスキャンダラス・メモアリストについても、同様の解明を行うことも目的であった。

（2）「異国トポス」表象の読み解き

スキャンダラス・メモアリストたちは、自国で醜聞に塗れていたこともあり、異国を希求し実際に旅行し異国トポスを表象している。フィリップス婦人はジャマイカを、モンタギュ婦人はトルコを（彼女の書簡集『トルコ書簡』(1763)が主な研究対象)、グーチ婦人はフランスを（『グーチ婦人の生涯』(1792)が主な研究対象、彼女は夫によってパリで遺棄された)、それぞれの想いを投影しながら、特別の意味の凝集した空間として描いている。男性中心的言説に取り込まれない、もしくはそこから放逐された彼女たちは、象徴的な意味でも現実にも周縁に[亡命し／流刑され]ているのである。本研究は、従来の伝記研究で詳らかになっていない滞在の実体を、フィールドワークで可能な限り解明した。またその実体と作品内で表象するレトリックを分析し、比較考量することで、「異国トポス」が彼女たちにとってどのような意味を持ったのかを明らかにした。周縁に光をあてることで、彼女たちの出身である英国という初期近代国家の実態が浮かび上がらせることができた。

３．研究の方法
(1)入手困難なスキャンダラス・メモアリストに関する一次資料を所蔵する大英図書館など海外の図書館で、文献を精読・検討した。極めて貴重な『T.C.フィリップス婦人の行動への弁明』の初版を所蔵する大英図書館などに海外出張を行い、徹底的な精読を行った。『T.C.フィリップス婦人の行動への弁明』(初版）は大英図書館や UCLA が所蔵しており、これは第２版以降の比較的入手しやすいものとは、かなりの異同があることが認められた。フィリップス婦人の自筆サインが多数含まれているという当該初版を検討することが本研究の中核であった。また、私家版として出版年すら記述されていない初版と、それ以降に出版社が出した整然とした版の違いは、彼女の出版意図と表現の激烈さにおいて相当の差異を生み出していると考えられ、フィリップス婦人で三巻千頁以上、グーチ婦人で三巻五百頁ほどの初版を徹底的に精読した。
(2) 当該作家たちの異国生活調査のためのフィールドワークを行った。日本の学会、研究会で情報交換・ディスカッションを行うと共に、本研究課題の意義の啓蒙活動を行った。

４．研究成果
各所で講演やシンポジウムに参加し、本研究の成果を発表し、またこの課題の重要性の啓蒙を行った。日本ジョンソン協会第 44 回大会では、「恋と逃走のジャマイカ――*An Apology for the Conduct of Mrs. T.C. Phillips* のショック」というタイトルで講演を行った。<スキャンダラス・メモアリスト>というテーマについての学会発表として、本論が日本初のものとなった。

日本英文学会関西支部第 6 回大会では、「〈言い返す女〉テレジア・コンスタンシア・フィリップスの法と誠」というタイトルで講演を行った。スキャンダル・メモアリストの<言い返す>という特質が、男性中心社会及び文学への抵抗を示す身振りとして描出されており、これが後の世代の女性文学者に継承されていくことを実証的にまたテクストに即しながら論じた。

日本ブロンテ協会関西支部では、「ジャマイカと女たち――サリー、コン、バーサ、アントワネット」というタイトルで講演を行い、フィリップ婦人の異国表象が、後の英文学作品、例えばシャーロット・ブロンテの『ジェイン・エア』などに影響を与えたことを明らかにした。特徴的なのは、フィリップス婦人がジャマイカに恋人と過ごしていた時期のエピソードであり、そこで体験したとされるジャマイカ地震描写の激烈さによって、後の文学の激烈な感情を描く際の比喩として「地震」を思わせる記述が際立って見られるようになったことを複数の文学作品を辿りながら詳細に論じた。

著作に関しては、2013 年 4 月に『＜アンチ＞エイジングと英米文学』という編著書を発表し、その最終章に「レイプされる少女から蕩尽する妖婦へ――Ｔ・Ｃ・フィリップス女史の数奇な人生――」を載せた。そこでは、ライフ・ワークの自伝を書きあげたフィリップス女史の晩年の意識の中に、レイプを受けた若き日の悲惨と老年を併せて自己像を構築する意識があり、その半ばにフィクショナルなジャマイカでの恋人との幸福を配して、年齢意識の呪縛から仮構的に逃れ得たことを示した。

また、研究課題に関係する書物『『ガリヴァー旅行記』徹底注釈』を岩波書店から刊行した(2013 年 8 月)。この書物は科研基盤研究(C)「「南太平洋」という物語言説の変容と変奏」（課題番号：21520250）から引き続き書き続けてきた書物であり、数年間にわたる研究が結実したものである。強烈な風刺とたぐいまれな空想に満ちあふれた傑作『ガリヴァー旅行記』という、異国トポスを駆け抜けるガリヴァーの航海を、実証研究、テクスト分析によって詳細に読み解き、最新の学術・批評研究の成果を踏まえて、さらにオリジナルな論点や読みを盛り込んだ、時代を画する成果となった。

また、編著書として『移動する英米文学』を 2013 年 12 月に上梓し、その中の「アビシニアン・ジョンソン」を執筆した。これはアビシニア＝エチオピアという異国トポスをサミュエル・ジョンソンがいかに描いたかを読み解くもので、本研究代表者が編集した「移動する」というテーマの論文群で構成した書物の重要な一章となっている。

論文としては、アジア表象に関係する「香料・漆・金――アンボイナ事件表象を巡って――」を『アジアをめぐる比較芸術・デザイン学研究――日英間に広がる 21 世紀の地平――』(2013 年 3 月)に掲載した。これはイギリス・オランダ・東南アジア・南アメリカなどに関わる小説群をグローバルな観点で関連づけた文学に留まらない歴史的射程を持った論文であり、「デザイン学研究」という大きな枠の中で書かれたものである。

本課題に関する最も重要な研究成果は前述の「レイプされる少女から蕩尽する妖婦へ――Ｔ・Ｃ・フィリップス女史の数奇な人生――」に加えて、『言葉のしんそう（深層：真相』に載せた「ジャマイカと女たち――サリー，コン，バーサ」である。フィリップス婦人のフィクション的構成をも持った文学的自伝が、後の文学、特に女性文学の発展にとって、極めて重要な役割を果たしたということを結論づけ、本研究を締めくくることができた。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　３　件）
服部　典之、ジャマイカと女たち――サリー、コン、バーサ、『言葉のしんそう（深層：真相』（英宝社）、査読無、2015、107-121
服部　典之、ロマンスとポリティクスが交錯するところ――『トム・ジョーンズ』におけるジャコバイトの反乱とソファイアの遁走、『フィクションのレトリック』（共編著・前書き、英宝社）、査読無、2015、45-65
服部　典之、香料・漆・金――アンボイナ事件表象をめぐって――、『アジアをめぐる比較芸術・デザイン学研究――日英間に広がる21 世紀の地平――』藤田治彦編、大阪大学大学院文学研究科、査読有、2013、17-26

〔学会発表〕（計　４　件）
① 服部　典之、他、『ガリヴァー旅行記』の愉楽――訳者と注釈者による徹底討論、リブロ池袋本店主宰・池袋西武別館コミュニティ・カレッジ、2013 年 12 月 1 日
② 服部　典之、小人と巨人と馬のユートピア、第 124 回懐徳堂秋期講座、大阪大学中之島センター、2012 年 11 月 20 日日
③ 服部　典之、他、ロマンスとポリティクスが交錯するところ――『トム・ジョーンズ』におけるジャコバイトの反乱とソファイアの遁走、日本英文学会東北支部第 68 回大会、東北工業大学、2013 年 11 月 24
④ 服部　典之、ジャマイカと女たち――サリー、コン、バーサ、アントワネット、日本ブロンテ協会関西支部講演、三歳大学、2012 年 7 月 21 日

〔図書〕（計　３　件）
服部　典之　他、英宝社、＜アンチ＞エイジングと英米文学、2013、18-36
服部　典之　他、岩波書店、『『ガリヴァー旅行記』徹底注釈』、2013、1-593
服部　典之　他、英宝社、『移動する英米文学』、2013、18-36

〔産業財産権〕
○出願状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
無し

６．研究組織
(1)研究代表者
服部 典之　　　(HATTORI NORIYUKI)
大阪大学・文学研究科・教授
研究者番号：50172937

(2)研究分担者
なし　　　(　　)

研究者番号：

(3)連携研究者
なし　　　(　　)

研究者番号：